



# 禁断の木の实

花房俊昭



試験勉強をしているときに限って他の本が読みたくなる。

多くの方々はそのような経験を持っておられるのではないだろうか。そのような時に限って、日頃はあまり読み進まない本もスラスラと読める。不思議なものである。目前のプレッシャーからの逃避行動であろうか。「禁断の木の实」ほど甘いものはない。試験期間中であるにもかかわらず、気分転換だと自分に言い聞かせ、試験とはまったく関係のない本を読み漁った日々のことを、昨日のこのように思い出す。いや、お恥ずかしいことに、大学卒業後30年近く経った今も、その行動パターンにはまったく変わりがない。

医師になり、研究にも手を染めるとともに、必要に迫られて多くの医学書や論文を読んで来た。しかし、昔からの逃避行動は今も健在である。期限の迫った仕事をいくつも抱えながら、(あるいは、そういう時期だからこそ?)他の本にうつつを抜かす。スリルに満ちたひとときである。そのようなひとときが、私にとって至福の読書タイムになる。

私は医局会で自分の読んだ本の紹介をすることがある。教室員の何らかの参考になればと思って紹介しているので、必然的に医学に関係したものが中心となる。しかし、時には医学とまったく無関係の本を紹介することもある。実をいうと、そのような本の方が「純粋に読みたいという思いから読んで読んだ本」ということになる。

自分の読みたい本をどのようにして選ぶのか、教室員から時々きかれる。私の判断基準は、「面白いと思うかどうか」である。面白そうで読みたいと思った本はとにかく買っておく。そして、読み始めて面白くないと思ったらそこで躊躇なく読むのをやめる。面白くない本を無理に読み進むことほど大きなストレスはない。とはいえ、最初面白そうだと思って買って、読み始めてみるとそうではなかったという本も少なくない。その結果、少し読んだだけで、あるいは一度も読まないまま書棚を占拠する本が増え続けることになる。書店で実際に本を手にとり、一部を読んでみて、これはどうしても読みたいという衝動にかられて購入してもそのようなことがあるが、インターネットで購入するときはその危険性がより高くなる。しかし、面白くない本を買ってしまったも、本の良し悪しを見抜く眼を養うための授業料を払ったのだと思って後悔しない。その投資の成果が、最近インターネットで買うときもある種の嗅覚が働き、面白い本にあたる確率が高くなってきた。

私のこの読書スタイルは、今後も変わることはないだろう。そして、読まれないまま、あるいは少し読んだだけで書棚に戻されてしまった本達も、いつかは面白いと思ってもらいたいと私の目に留まる日を待ち続けているに違いない。私もそのような本達が、私自身の心の成長とともに、いつの日か私の心に感動を覚えさせてくれるのを心待ちにしている。

最後に白状すると、このエッセイは、期限の迫った(なかには期限の過ぎたものもある)仕事をたくさん抱えているにもかかわらず、それを後回しにして楽しみながら書いた。他の仕事の出来上がりを今や遅しと待っておられる方々、ゴメンナサイ。どうやら、また禁断の木の实を食べてしまったようだ。

(はなふさ・としあき 第一内科学教授)

## 携帯電話とメールと親指

足立 至

携帯電話が登場したのは1991年頃だったと聞いたが、すぐに普及したわけではなく、阪神大震災のあった1995年はまだ少数であった。新しもの好きの私は、そのころに初めて携帯電話を買い求めたように覚えている。仕事に間に合わないときになどに活用して大変重宝したが、この頃から携帯電話のマナーについても話題になるようになり、折角買っても病院では使えない時代が来ていた。



「あいうえおあいうえお...間違えた」

1999年からは、道路交通法で自動車の中で電話するのも規制され、携帯電話はしゃべれない道具になりつつあった。電子メールが普及したのも、1990年代の中頃で World Wide Web (www) の仕組みができて、インターネットメールがパソコンで使えるようになった。パソコン好きであったが、メールを利用するようになったのは案外遅く、1998年からだった。その当時は札幌で生活しており、関西の友人に一瞬で伝達できるメールはすごいと思ったが、活用と言ってもいちいちパソコンを起動してメールソフトをチェックするという作業は面倒で、学会関係や仕事でのやりとりだけであった。そうこうしている間に21世紀になり、2001年夏になってメール機能を備えた携帯電話に買い替えた。多機能であるが当然使いこなせず、最初は通話だけであったが、しばらくしてメール機能も使うようになった。自分のメールボックスに届いたメールを携帯電話に転送するように設定するだけで、自宅に届いたメールをリアルタイムに着信しているのが確認できるし、内容もすべてではないが閲覧できるようになった。大変便利で、携帯電話でメールしている人が多いのも納得できたが、いざメール作成、送信になると状況は変わった。パソコンでのキーボード入力の指10本でも入力はや早いのに、親指族になるのは難しい。親指一本では入力はすごく時間がかかり、「あ」のキーを何度も押せば「あいうえおあいうえお」と順番に出てきたが、入れたい文字は行き過ぎるし、間違えて、思うように入力できない。携帯電話ではメールの入力や送信は無理と思って、しばらくは閲覧専用に使っていた。このころ、毎日決まって検査室をきれいにしてくれる方ともよく話しをするようになったのだが、残念ながらご高齢で退職された。退職する前に、いつもパソコンの前にいる私に「インターネットやメールを覚えたいからアドレスを教えてください」と言われたので、気安く教えた。2ヶ月位したら長文のメールが届き、返信先を見るとなんと携帯電話からの送信だった。どうしてあんな長い文章を携帯電話で入力できたのですかと尋ねたら、入力はそんなものと思っていたようで、配列の分からないパソコンでのキーボード入力やローマ字変換よりは苦痛はないようであった。年輩でありながら、親指族になって携帯電話でメールを書いている姿を想像したが、最近のテレビコマーシャルでも、ご老人が携帯電話で「お手紙執筆中」と言ってメールを書いているのを娘さんが見ているくだりがあり、これが現実になりつつあると思った。パソコンからのメールは添付ファイルやカーボンコピーなど多機能であるが、外出先からの即応性が低いし、モデムやルータなどの設定などで困っている人も多く、駆けつけ設定といったサービスもあり複雑なことも多い。この点携帯電話メールは購入時に使えるようにしてくれているので、自分で設定する必要もないし、外出先でも家でも使える。分からないときは文字通り携帯してお店に持っていける。通信費はかかるのは携帯電話もパソコンも同じだが、携帯電話は本体が大変安く、容易にインターネットメールができる機器であることは確か。相手に言葉を伝えたいだけなら、携帯電話メールで事足りるので、しゃべれない携帯電話を活用するためには親指を活用しなければと思う。

(あだち・いたる 放射線医学診療助教授)

## 北枕病室の是非 - 21世紀の医療環境 (13) -

牧 彰

過日、丹波紫陽花寺・補陀落山〔観音寺〕でご住職から伺った紫陽花にまつわる深遠な話を、まずは明日の医療を担う知的好奇心旺盛な大阪医大医療従事者の諸兄諸姉にお伝えしたい。

古来より、日本人は花を愛でることで知られている。梅・桜・藤・菊・椿などは詩歌にも謳われ、紋章・衣装・工芸・建築などの図案によく使われた。しかし、こんなに花好きな日本人にも、紫陽花だけは以下の理由で忌み嫌われていたとのことです。

装飾花（正確には萼）が4枚ある紫陽花は、縁起悪い〔不吉な花〕として蔑まれた。これは、最新の病院でも4（死）と9（苦）が付く病室番号がないのと同じ由縁です。言葉の語呂にもこれほど気遣う私たちが、今では四つ葉のクローバー探しに熱中するのですから解らないものです。

紫陽花の魅力は、土壌の酸性度や雨に濡れる毎に花色が移ろい、徐々に鮮やかさを増すことにある。しかし、松などの常緑樹が節操を表わす代名詞とされた時代でもあり、この花の特徴は〔移り気〕として婦人の貞節や武士の信義を重んじる儒教精神からも敬遠された。

また、花は萎んでも落ちず執拗に枝付いている。これまた〔優柔不断〕であり、潔さが信条の先人たちに疎まれた。散り際の爽やかな桜とはまさに対照的といえる。

こんなにも疎まれ続けた紫陽花だが、シーボルトが江戸期に欧州に持ち帰り品種改良が重ねられ、近代になって西洋アジサイとして逆輸入された。皮肉にも当代の世相「不倫は文化」を反映してか、あの忌まわしい〔古の呪縛〕からも解かれて、今では広く愛でられているのは誠に殊勝なことです。

有史以来、わが国は常に圧倒的な中国文化の影響下にあり、文明開化の明治以降も〔天子の南面・死者の北面〕は神仏を敬い極楽往生を願うこの国の因習として遵守され、仏滅の結婚式や友引の葬式などと同じく不吉で忌避すべき事象として〔生前の北枕〕はタブー視されてきた。IT革命を標榜する平成の世でさえも、霊安室などでは〔死者の北枕〕が通常です。

ホテルや旅館などは、一般には短期宿泊でもあり、例え北枕であってもお客に気付かれることはないでしょう。主に健常者を対象とした経済効率優先の宿泊施設などに北枕があったとしても、まだ斟酌の余地があります。

しかし、弱者のための病院や福祉施設では大いに状況が異なります。心身共に滅入っている状態の患者が、もし北枕に寝かされていることに気付いたとしたら、万事を悲観的に思い悩むこと必定です。死や苦を連想させる病室にさえ気遣ってきた日本人には、北枕での〔心の安息〕は難しいでしょう。これでは、患者自身の「生きる気力を培う」べき現代医療が、患者から「生きる希望を奪う」ことにならないでしょうか。

敷地形状や周辺地域の法規制などにより、南北を長辺とする平面形の病棟では、医師や設計者などが余程北枕回避に強い執念でも持たない限り、病室の北枕全廃は至難の業でしょう。大阪医大付属病院でも、敷地西側の近隣対策上南北に長い〔6号館〕などは必然的に半数程度は北枕になると思われます。建設予定の〔新総合病院棟〕などは、此の辺りを如何に配慮しているのでしょうか。

院是を思いやりの心〔恕〕とした赤穂市民病院では、千種川に沿って自ずと南北に長い病棟になりました。一辺が20mのループ状廊下の外側に病室群を、内側にはナースステーションなどを配した正方形の看護単位を二つ対角線で繋げて全病室へ日照をもたらし、予てから懸念の北枕病室も幸いにも併せて回避できました。

病院設計は単に機能と技術だけではなく、精神の作業・心の問題として捉えなければなりません。最近では、「地球の磁極に頭を向けると身体によい」などの北枕擁護説もありますが、北枕病室を解禁するためには、まずは私たちの〔死生観〕への意識改革が先決です。現代医学の目覚ましい進展の陰に、医療の原点である患者の〔心の安息〕がなおざりにされているように思えます。日陰の花〔紫陽花〕が陽の目を見たように、いつの日か病院の〔北枕〕も認知されるでしょうか。

（まき・あきら 元日建設社員 本学総合研究棟・本学図書館棟設計担当）



全病室への日照確保と北枕回避を両立させた赤穂市民病院

# 犬のいる暮らし

明 田 朋 子

中学生のころ実家でコロという名前の雑種の犬を飼っていた。実家は四国の田舎で、ほとんど放し飼い状態だったが、その頃はどの家もそうだったと記憶している。しかし当時住んでいた庭のある木造平屋建ての社宅が、鉄筋の集合住宅に建て替えとなり、コロを飼うことができなくなった。ある日学校から帰るとコロがいなくなっていた。母は父が知り合いに預けたというが、どうやら私のいない間に保健所に連れて行ったようだった。その時の悲しさや寂しさ、きちんと飼ってやれなかったという罪悪感から生き物はもう二度と飼うまいと固く心に決めていた。

いつしか時が流れた。友人から犬を飼い始めたと聞き、遠い昔に封印したはずの犬に対するある種の懐かしさが、もう一度犬を飼いたいという気持ちに変わり、しばらくは週末ごとに近所のペットショップに通うという行動に移っていった。ある夏の週末も、いつもと同じようにペットショップに通い、パグを見ていた。低い愛嬌のある鼻とクリクリとした目をした2匹のパグがじゃれあっていた。今思えば、どこかのCMで訴えかけるような目で見つめられたおじさんのように、その前に引き寄せられるように立っていた。2匹のうちの小さい方を抱かせてもらい、魔法でもかけられたかのように「この子買います」とつい店員さんに言ってしまっていた。こうやって2000年8月19日に生後2ヶ月のオスのパグ犬が家族の仲間入りをした。

ゴエモンと名付けられたオスパグはその日から我が家の暮らしを変えてしまった。「クーン、クーン」という泣き声で起こされ、時計を見るとまだ5時である。以降我が家に早起きという習慣を与えてくれた。しかし目を離したすきにおもらしをするのは序の口で、買ったばかりのテーブルやイスをかじる、壁を引っかくなど、このままでは家を破壊されてしまうのではないかと不安にかられ、とりもなおさず犬のしつけ方の本を買い込むことになった。「犬は群れで生活する動物で、群れの中のリーダーが誰で、自分は群れの中の何番目かを常に意識している。」「飼い主がリーダーなのだ」と正しく理解させることが最も重要だなどと書いてあるが、それまで知らなかったことばかりでとても新鮮に映った。この頃はまだゴエモンと順位を争っていたありさまで、何としてもリーダーの地位を確保しなければと躍起になってしつけ教室にも通い始めた。犬を飼うことは子育てと同じであり、こうして私の子育てが始まった。

日が短く寒い冬は別としてほとんど毎日散歩に連れて行く。ゴエモンは散歩が大好きで、リードを持つそぶりを見せただけで、私の周りをクルクルと回り、喜びを表現する。犬もうれしさ・楽しさ・怒り・恐怖・甘えなどの感情を持ち、表現することができるのだ。その澄んだ瞳とアイコンタクトができた時、決して裏切られることのない安心感と安らぎを与えてくれる。散歩に行く時はほぼ同じ時間に家を出るため、自然と他の飼い主さんと顔見知りとなり、飼い犬の健康状態や近所の動物病院の評判、しつけの方法や犬用グッズのことなど話が弾む。犬はクンクンとお尻の匂いを嗅ぎ合い、じゃれあったりしているが、その様子を眺めるだけでも楽しい。本当にかわいい。ゴエモンはもはやかけがえのない存在であり、れっきとした家族の一員である。

ゴエモンが我が家に来てもうすぐ3年になるが、時々病気や怪我をする。私の不注意から眼球を傷つけてしまい角膜炎を起こしたこともあったし、嘔吐と下痢のため夜遅くに動物病院へと車を走らせたこともあった。しかしどんなことがあってもゴエモンは精一杯生きている。今ある命を大切に生きなければならぬと学び、家族の絆の大切さや命あるものを育てる責任について改めて考えるようになった。

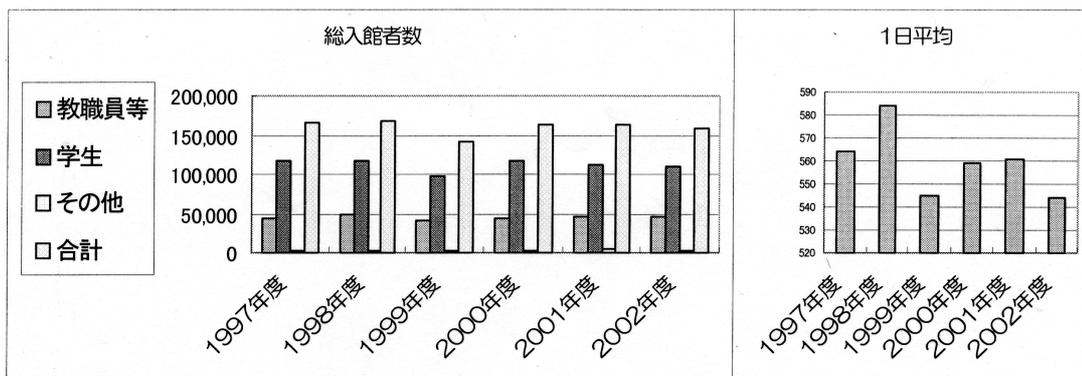
犬のしつけ方の本には人間の育児書には書いていないことがひとつだけある『いつか来るお別れ』である。犬の平均寿命は小型犬で12歳から13歳。これでも生活環境の向上とドッグフードの開発で長生きになったのだそうだ。ゴエモンがどんなに長生きをしてもいつかはお別れの時が来るだろうし、きっとその悲しさや寂しさには耐えられないだろう。きちんと飼ってやれなかったという後悔だけは残さないよう、今ある命を大切にしながら共に暮らしていきたい。

(あけだ・ともこ 看護専門学校専任教員)

## 図書館利用状況

(1997年度～2002年度の推移)

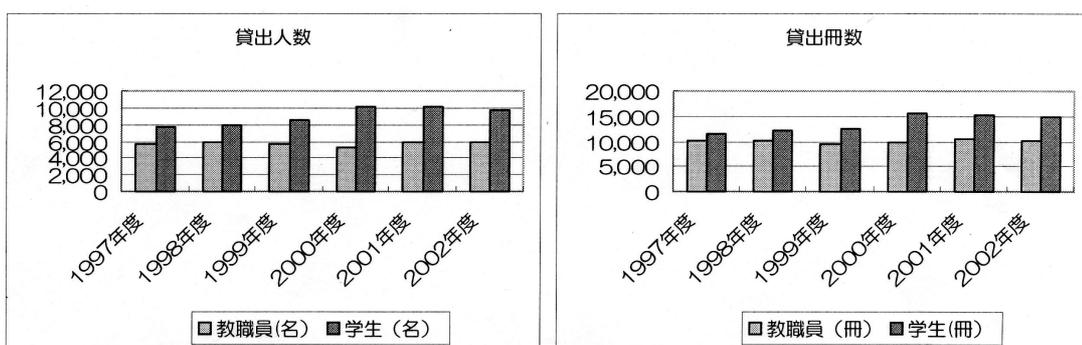
### 1. 入館者数



	教職員等	学 生	そ の 他	合 計	1日平均
1997年度	44,672	116,922	3,224	164,818	564
1998年度	48,451	117,799	3,182	169,432	584
1999年度	42,468	96,546	2,730	141,744	545
2000年度	43,180	116,293	3,299	162,772	559
2001年度	47,264	111,268	3,728	162,260	561
2002年度	45,423	110,370	2,133	157,926	545

昨年度と比べて、合計入館者数が約2.8%減少しています。2001年度に増加（前年比9.5%増）した教員の入館が、2002年度にはまた減りました（前年比3.9%減）。先生方は、図書館に足を運ぶより、オンラインによる情報検索やジャーナルの閲覧をご利用になっているのかもしれませんが。

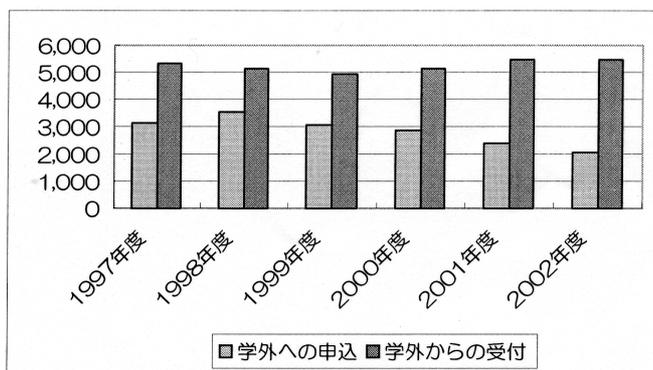
### 2. 貸し出し



	教職員(名)	教職員(冊)	学 生(名)	学 生(冊)
1997年度	5,686	10,141	7,807	11,474
1998年度	5,879	10,237	7,962	12,042
1999年度	5,670	9,637	8,484	12,473
2000年度	5,273	9,955	10,205	15,556
2001年度	5,864	10,561	10,168	15,422
2002年度	5,886	10,285	9,816	14,961

入館者数の減少は貸し出し冊数の減少にもつながります。借りるより必要な部分だけコピーしてしまう、図書館以外の場所でオンラインジャーナルを利用する、といったケースが考えられます。また、必要な情報をインターネットで手軽に探し出す、という場合も増えているのではないかと思います。

### 3. 相互貸借



	学外への申込	学外からの受付
1997年度	3,122	5,319
1998年度	3,502	5,111
1999年度	3,091	4,909
2000年度	2,890	5,144
2001年度	2,375	5,438
2002年度	2,066	5,480

学外への申込は年々減少しています。情報網の発達で図書館以外にも文献入手の方法があるのかも知れません。逆に学外からの受け付けは増加傾向にあります。国立情報学研究所（NII）のILLシステムに参加していること、病院図書室からの依頼を積極的に受け付けていることが、大きな理由です。

## ニューメディア情報室利用に関するアンケート集計結果

2003年2月18日（火）・19日（水）の2日間、ニューメディア情報室利用に関するアンケートを実施いたしました。その結果を報告いたします。

両日とも、入館時に用紙を手渡し、記入をお願いしました。

配布数267枚、回収174枚、回収率は約65.17%です。

#### A. 回答者の身分

教職員	33名
学 生	105名
大学院生	3名
看護学生	30名
その他	3名

#### B. 利用目的（複数回答）

	教職員	学 生	大学院生	看護学生	その他
インターネット情報検索	14	78	2	26	0
提出用レポート作成	9	76	0	20	1
Online journal閲覧	10	1	2	0	1
CD-ROM資料閲覧	8	1	0	0	0
その他	1	1	0	0	0

### C . 利用頻度

	教職員	学 生	大学院生	看護学生	その他
ほぼ毎日	0	4	0	0	0
週2・3回	4	32	0	9	0
月数回	9	45	0	18	1
年数回	13	18	2	1	1
初めて	3	4	1	2	0

### D - 1 . アプリケーションソフトについて

	教職員	学 生	大学院生	看護学生	その他	合 計
非常に満足	2	8	1	1	0	12
まあまあ満足	23	75	2	33	2	135
不満	1	15	0	2	0	18
非常に不満	0	4	0	2	0	6

### D - 2 . プリンターの状況について

	教職員	学 生	大学院生	看護学生	その他	合 計
非常に満足	1	6	1	0	0	8
まあまあ満足	20	63	1	16	2	102
不満	4	25	1	13	0	43
非常に不満	0	7	0	1	0	8

### D - 3 . 機器の台数について

#### 編集用パソコン

	教職員	学 生	大学院生	看護学生	その他	合 計
充分	2	6	1	0	0	9
このままでよい	15	22	1	9	1	48
不足	8	75	0	20	0	103

#### 情報検索用パソコン

	教職員	学 生	大学院生	看護学生	その他	合 計
充分	2	9	1	0	0	12
このままでよい	19	56	0	23	1	99
不足	4	38	2	7	0	51

#### プリンター

	教職員	学 生	大学院生	看護学生	その他	合 計
充分	0	7	1	0	0	8
このままでよい	16	31	0	9	1	57
不足	8	64	1	19	0	92

#### 最後にご意見・ご要望をお聞きしたところ

- ・ 編集用パソコンを増やして欲しい
- ・ プリンターをふやして欲しい
- ・ カラープリンターを入れて欲しい
- ・ 医学用語の変換ソフトが欲しい

などがありました。機器の増設は難しいのですが、この4月からプリンターを一台増やすことができました。カラー印刷に関しては、有料（1枚100円）でプリントすることはできます。ソフトは徐々に充実させてまいります。他に、おしゃべりがうるさい、とか長時間使えばなしの人がいて困る、といった利用マナーに関する不満もありました。お互いに気を付けましょう。

今回皆様からいただいたご意見を参考に、今後ニューメディア情報室をもっと使いやすくしていきたいと思えます。アンケートにご協力ありがとうございました。

## 他大学図書館訪問記 (17) 川崎医科大学附属図書館の巻

川崎医科大学は岡山県倉敷市の東北部に位置します。JR岡山駅から山陽本線にて西（広島方面）へ二駅目の中庄駅から北東方面に1km徒歩約10分の道程で丘の上に病院棟と大学棟とが並んであります。川崎医科大学は岡山市内で川崎病院を開業されていた川崎学園創始者故川崎祐宣先生の理念に基づき1970年に建学され、現在学園内には川崎医療福祉大学、川崎医療短期大学、ならびに川崎リハビリテーション学院の各学校もあります。

川崎医科大学附属図書館の前身は川崎病院の3階にあった図書室になります。大学設置のため病院の図書資料に加え、多数の図書資料を購入する以外に多くの方々からの御寄贈により図書収集をはかられ、開学当初は現在の短期大学学舎の一部に医大の施設として図書館を設置されたそうです。1970年附属病院棟の完成により、その7階を入口として現在の図書館が完成し



川崎医科大学遠景(図書館は右側の建物内)

ました。図書館の特色は独立の建物にせず附属病院等の施設のほぼ中心に位置し、学生自習室、教員居室、実験室及び校舎棟と連絡廊下にてつながり、教職員・学生にとって非常に利用しやすい所に設置されていることだそうです。広さ約3,300m<sup>2</sup>強で座席数150余です。2003年3月末での蔵書構成は、購読国内誌228点、購読外国誌388点、和図書42,746冊、洋図書23,479冊、和雑誌34,418冊、洋雑誌69,228冊となり、総計169,871冊の蔵書があるとのこと。雑誌価格の高騰により購読誌数が減る傾向にありますが、2003年度はProQuestシステムの導入で対応をされています。

図書館の開館時間は、平日午前8時30分から午後8時まで、土曜日午前8時30分から午後5時までで、冬と春の休暇中は平日午後5時まで、土曜日午後12時30分までとなります。休館日は日曜日、祝日、創立記念日（6月1日）、年末年始です。利用できる人は学園の教職員・学生・生徒および、他大学に所属する方々ならびに医療関係従事者となっています。

入口の7階には受付カウンターがあり、向いに事務室・サーバー室があります。その先OPACと、Web等ネットワークを利用できる端末があり、ブラウジングとコピー機もあります。左手には新着図書架と参考図書コーナーがあり、その奥単行書架が、右手にはカレント誌の書架が並び、閲覧机



メインカウンター

は窓側にあり、奥には2～6名で利用できるカンファレンス室が6室並んでいます。館内8階部分に上がる階段があり、二次資料と1959年以前の製本雑誌等があります。また小さな映画館のような80席ほどの小講堂と、個人利用のための視聴覚室と、グループ利用のための視聴覚室とがあります。書庫は階下4階まで各階の一部を使用した3階5層書架となっており、上から洋雑誌、和雑誌と排架されています。

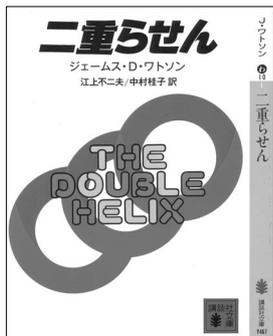
2001年からはリコーのLIMEDIO図書館システムを導入し、図書資料の管理・貸し出しから検索まですべて電算化されました。図書館電算化の際にはすでに大学で使われていたIDカードを利用しデータの共有を行ない、貸出時には学校のIDカードで処理できます。医療福祉大学、医療短期大学にも図書館がありますが、図書館システムは医科大学附属図書館をメインサーバーとし、各館に分館サーバーを置きデータを共有して運用されています。もちろん学園のどの学校の教職員・学生の方々でも、何れの図書館も利用できます。

図書館ホームページは現在学内のみに開放されており、OPAC蔵書検索、ProQuest等オンラインジャーナルへのリンク、医中誌Web等データベースへのリンク、購読雑誌リスト等が公開され、トピックスなお知らせも掲載されています。

(宮本)

## 二重らせん

ジェームズ・D・ワトソン 江上不二夫 / 中村桂子 訳 講談社文庫 1986年  
時 松 敬 明



今年はDNAの構造が発表されてからちょうど半世紀目に当る。50年前にその論文を掲載した雑誌Natureが年初に60ページ弱に亘る記念特集記事を載せた（1月23日号：p.395～p.453）。その中に原論文が再掲されている（p.398～p.401）。また、1962年のノーベル賞受賞の記念写真も掲載されている（p.403）。1953年の原論文は4月24日号のNatureにも付録として小冊子に纏められて付けられた。

本書はDNAの構造の発見者として有名なワトソン博士の目から見たDNA発見に至る苦闘の日々を綴った記録の翻訳である。

評者が原本（英語版）の存在を初めて知ったのは1973年にDahlberg博士（アメリカ、Brown大学）のところに留学したときであった。博士は生物学の入門コースの学生に読ませるのだと云って十数冊持っておられた（文庫版：恐らくBantam版）。早速同じものを買って求め、拙い英語力で読んでみた。彼等のDNAモデルがロザリンド・フランクリンの撮ったX線写真を基にしたものであったことや塩基の正しい互変異性型（ケト型）を考慮することによって正しいモデルに到達できたことなどが印象的であった。今回依頼を受け、読み直してみようと思ったが当時の本を見つけ出すことが出来ず、やむを得ずAmazon(日本)から翻訳を取り寄せ読んで見ると幾つか誤った記憶をしていた。

若いワトソン博士の赤裸々とも言える記述は、1962年の彼のノーベル賞受賞に絡んで物議を醸したもののようである。この年の医学・生理学賞はDNAの構造の解明者として周知のようにワトソン、クリックとウィルキンスであった。1953年のNatureにはワトソンとクリックがDNAの二重らせんモデルを、ウィルキンス等はA型DNAの回折像を、フランクリン等はB型DNAの回折像を同時に発表していた。立場上はウィルキンスの助手であったロザリンド・フランクリンはウィルキンスとは独立に研究していたが、彼女の撮影したX線回折像がワトソンのDNAモデルの根拠となっており、またその回折像は正式に彼女の許可を得て手に入れたものではないとの告白的な記述があるからである。彼女はノーベル賞の対象から外されていた。このことは、当時の社会においては女性研究者に対する蔑視と受け取られたのではないかと推察される。初めに挙げたNatureの特集の中にも2ページに亘った関連記事がある（p.401,402）。

このような事情にもかかわらず彼等の発見は誰かが書いているように「20世紀の大発見の一つ」に数えることが出来よう。X線結晶学の創始者である、ブラッグ卿もこの本の序文で述べておられるように、“DNAの構造の発見は、その生物学上の意味合いもふくめて、今世紀の科学界における主要な事件のひとつであった。それこそ無数の研究がこの発見によって触発された。それは、生化学の分野に爆発を引き起こし、その姿をまったくかえてしまったといってもよい。”であろう。

博士は早くから生物学に興味を抱き、遺伝子の本質を知りたいと願っていた。化学は嫌いだったようである。当時（1940年代前半）アベリーの研究によって遺伝子の実体がDNAであることは、一部の科学者にははっきりしていた。ファージ（ウイルスの一種）研究の大御所ルリア（インディアナ大学）のところからコペンハーゲンに渡り、そこに居るとき国際学会で、ウィルキンスのDNAのX線回折による研究に触れ、分子の立体構造研究の中心であるイギリスに引き寄せられることになる。蛋白質のヘリックスの立体構造に成功していた大化学者ライナス・ポーリングとの熾烈な（と想像できる）競争に勝ち抜く幸運を博士が得たのは、ケンブリッジのキャベンディッシュ研究所で、遺伝子にも興味を抱く有能な共同研究者（物理学者）のクリックと出会ったことと、塩基の間違った互変異性体を用いていることを指摘してくれたジェリー・ドナヒュー（結晶学者）が偶然同室であったこととは無縁ではないかもしれない。もちろん、遠くないロンドンにウィルキンスやフランクリンが居て、正式ではないが彼等が測定したX線の散乱写真が容易に手に入ったことが前提ではあるが。

（ときまつ・ひろあき 物理学講師）

## 第9回医学図書館研究会参加報告

村上 公子

2002年11月27日に行われました、第9回日本医学図書館研究会に参加をさせていただきましたので、その報告をいたします。

研究会では、研究業績データベースに関するものや、図書館の利用者教育についての事例報告、電子ジャーナルの管理法や、図書館の建物に関するものなど、業務の参考にできるものばかりでした。また私自身も、「集計データからみた、当館における相互貸借受付業務」というテーマで発表をしました。

まず、「相互貸借」について、軽く触れておきたいと思います。「相互貸借」という言葉を、初めてきかれる方もいらっしゃるかもしれません。これは、図書館と図書館の間で所蔵資料を互いに貸し借りしたりする業務をさし、英語では Inter Library Loan (ILL) といいます。このシステムを利用すれば、書籍などの図書館資料を直接借りるだけでなく、雑誌に掲載されている論文などを複写して、送付してもらうことができます。また反対に、他の図書館より所蔵資料の貸出しや、文献の複写依頼が申し込まれてくれば、できる範囲内で応えなければなりません。

さて、今回は「相互貸借の受付業務」に関する数字について、調べました。私の業務分担である相互貸借の受付業務は、複写依頼の文献資料を書架から取り出し、複写を行い、また資料を書架へ返す作業を繰り返すため、席からはなれる時間が、長くなりがちです。そして、相互貸借だけに専念しているわけではなく、貸出/返却カウンターでの運用業務も行っています。

つまり、効率良く作業をすすめないと、カウンターでの業務に支障が出てしまい、利用者へのサービス低下につながる原因となります。そこで、業務を効率良く行うためのヒントを見つけるため、当館の相互貸借の受付状況に関する様々なデータを集め、傾向をみてみることにしました。データ収集は、月ごと・曜日ごと・時間帯ごとの相互貸借受付件数の推移についてと、受付を断った件数(謝絶件数)の推移について行いました。また、それぞれについて、図書館種別ごとの件数や、申込ルート(FAXかWebか郵便か)ごとにも、集計も行いました。

その結果、月ごとの受付件数のピークは、最近5年はほぼ10月にきており、逆に9月と12月は少ないという傾向がみられました。月受付件数は、平均400件程度、一日では20件ほどです。これは目安ですが、10件の文献複写作業を完了するまで(資料を書架へ戻すまで)、スムーズにいったら1時間程度かかります。ということは、一日平均して2時間程度の時間を相互貸借に割いている計算になります。

また、曜日別に受付件数をみると、相互貸借受付のピークは月曜日で、週末にかけて緩やかに減少しています。水曜日、金曜日、土曜日は受付件数が少なめでした。更に、一日のうちではどのように受付件数が変化するのでしょうか?基本的に、午前中は11時台の受付件数が多く、午後は14時台にピークを迎えていました。一方で、当館の入館利用者数が増える時間帯は、12:30頃と16:30頃という結果でした。この、時間差をうまく利用して複写の作業をすることで、業務の流れを良くできそうです。しかし、当然毎日状況は違っているため、頭で考えるようにはできないのが現状です。

最後に、謝絶の件数は、総受付件数の約1割程度という結果でした。その理由は、受付文献が、製本中であつたり、未着資料であつたり、購入を中止したタイトルが申し込まれてくるためなどでした。

以上の調査結果をもとに、うまく業務に反映させることができるのかといわれると、疑問です。ただ、受付件数が少ない曜日や、受付が集中する時間を頭に置いておくことは、業務全体の組み立てに、役立つのではないかとおもわれます。

最後になりましたが、このような発表の機会を与えて下さりまして本当にありがとうございました。紙面をお借りして、皆様にお礼申し上げます。  
(むらかみ・きみこ 閲覧係)

### 本学教職員著作寄贈

奥田 準二(一般消化器外科学)訂正再掲

腹腔鏡下大腸手術の最前線 / 奥田 準二他編著 永井書店 2002

花房 俊昭(第一内科学)

糖尿病診療ガイドブック / 花房 俊昭他監訳 総合医学社 2002

後山 尚久(産婦人科学)

女性診療科医のための漢方医学マニュアル / 後山 尚久 永井書店 2003

前田 環(第二病理学)

人体の構造と機能(コアテキスト1) / 前田 環他編 医学書院 2003

富士原 彰(救急医療部)

ガイドライン2000に準拠した一次救命処置; Basic Life Support (BLS) の実際 (CD-ROM) / 富士原 彰監修 非売品 2003



### 1. 必携！図書館カード

図書館への入館、図書館資料の貸出しには図書カードが必要です。忘れたときは入館時に、その旨お知らせください。カードの貸し借りは絶対にしないで下さい。

カードを紛失された場合は、再発行いたします。カードを拾得された方は、ご面倒ですが、図書館までお届けいただけるよう、お願いいたします。

### 2. 図書館は公共の場です

館内での飲食は禁止です。大声でのおしゃべりなど他人の迷惑になるような行為は慎みましょう。楽しく勉強をするのは多いに結構なことです。自分の部屋とは違う緊張感を持つのもまた楽しいのではないのでしょうか。

### 3. 平成14年度卒業生より図書の寄贈

病態生理で切った内科学 Part1 他 21冊 91,000.-

### 4. 新規受入雑誌（看護専門学校）

助産雑誌 57（2003）+

## 図書館業務日誌

### 平成14年11月

- 1日（金）医図協理事会・評議員会（於、東京慈恵医科大）
- 20日（水）近畿地区医学図書館協議会（於、大阪市大医学部）
- 27日（水） - 29日（金）  
医図協研究会・継続教育コース  
に館員が参加（於、大阪大学生  
命科学分館）

### 12月

- 5日（木）新図書館システムLVZのデモ  
（於、図書館会議室）
- 12日（木）図書館合同運営委員会、図書館  
将来計画検討委員会（於、図書  
館会議室）

### 平成15年1月

- 17日（金）医図協第74回総会組織委員会  
（於、大阪国際交流センター）
- 22日（水）医図協総務会・分担購入委員会  
（於、協会中央事務局）
- 24日（金）医図協企画・調査委員会（於、  
大阪市大医学部）

### 2月

- 5日（水）医図協総務会（於、協会中央事務局）
- 19日（水）医図協分担購入担当者会議（於、  
日本医科大学）

- 20日（木）図書館合同運営委員会、図書館  
将来計画検討委員会（於、図書  
館会議室）

### 3月

- 4日（火）近畿地区医学図書館協議会例会  
（於、神戸大学医学部）
- 12日（水）梅花女子短大学生見学来館（5  
名）
- 18日（火）滋賀医科大学附属図書館への視  
察（8名）
- 26日（水）本学図書館利用コンソーシアム  
説明会（7社）
- 27日（木）図書館合同運営委員会・図書館  
将来計画検討委員会（於、図書  
館会議室）

### 4月

- 3日（木）医図協総務会（於、協会中央事務局）
- 8日（火）新入生図書館オリエンテーショ  
ン（於、北西キャンパス）
- 14日（月）看護専門学校新入生図書館オリ  
エンテーション（於、大研修室）
- 18日（金）医図協理事会・評議員会（於、  
慈恵医科大学）
- 24日（木）図書館合同運営委員会、図書館  
将来計画検討委員会（於、図書  
館会議室）

## 編集後記

今回のトップ記事は、花房教授に、又エッセイは足立至先生にお願いしました。21世紀の医療環境シリーズは13回目になります。図書館利用状況も掲載しました。

その他多くの方に執筆して頂き、有難うございました。表紙のカットは北村達郎氏に描いて頂きました。読者の方の投稿を歓迎いたします。

（茂幾）

OMNIBUS「大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報」

No.24号 2003年5月31日 発行

編集・発行 大阪医科大学図書館

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL (072) 683-1221

(内線2799, 2621)

印刷 大日本印刷株式会社